

自分たちでつくれた修学旅行

3日間の修学旅行が終わりました。USJ、京都・奈良での班行動、宿舎での生活、そしてレク。きっと一人一人に、それぞれの思い出ができたと思います。今回の修学旅行を振り返って、先生たちが何よりうれしかったのは、みんなが「自分たちで考えて行動する姿」をたくさん見せてくれたことです。

1日目の USJ では、自分が行きたい場所だけを優先するのではなく、班員それぞれの希望を聞きながら、「次はどこに行く?」「どういう順番で回る?」と相談しながら行動していました。限られた時間の中で、みんなが楽しむためにはどうすればよいかを考える。そして、楽しみながらも、最後には全員が集合時間を守ることができました。

2日目の京都・奈良での班行動では、さらにみんなの成長を感じる場面がありました。電車を間違えたり、予定していた電車に乗り遅れたりする班もありました。しかし、そのたびに先生たちが「次はこうしなさい」と指示を出したわけではありません。今回、班行動の中で先生たちから行程について指示を出したことは、一度もありませんでした。「この遅れをどう取り戻そう」「次の電車なら何時に着く?」「この後の予定をどう変えればいい?」と、それぞれの班が自分たちで考え、仲間と相談し、予定を修正しながら次の目的地へ向かっていました。そして最後には、この日もすべての班が時間までに宿舎へ戻ってくることができました。

予定通りにいかなかったことよりも、その後、自分たちの力で立て直せたこと。先生たちは、そこにみんなの大きな成長を感じました。しおりにも、乗り遅れたり予定が大幅にずれたりした場合の対応は書かれていました。しかし、本当に大切なのは、書かれている通りに動くだけではなく、目の前の状況を見て、自分たちで考え、判断することです。今回のみんなは、それを実際の班行動の中で見せてくれました。

そして、もう一つ印象に残ったのがレクです。出演した人たちが全力でやりきったことはもちろんですが、それと同じくらい素晴らしかったのが、それを見るみんなの姿でした。拍手をする、笑う、声を出す。一緒になって楽しみ、出演者を盛り上げる人たちがいたからこそ、あれだけ楽しい時間になったのだと思います。楽しい行事は、誰かにつくってもらうものではなく、みんなでつくるものです。今回の修学旅行は、まさにそんな3日間でした。

修学旅行の目的の一つには、集団行動や班行動を通して、「責任ある行動」を身につけることが掲げられていました。時間を守ること、ルールを守ること、仲間の希望も大切にすること、そして何かあったときには自分たちで考えて動くこと。一人一人が責任を果たしたからこそ、一人一人が自由を楽しむことができた。そんな3日間だったのではないのでしょうか。

修学旅行のスローガンは、「旅して探す自分の道を ～あごだし学年最終章～」でした。あごだし学年の最終章は、まだ続きます。次は合唱コンクール、そして進路、卒業へと向かっていきます。修学旅行で見せてくれたように、これからも仲間と相談し、支え合いながら、自分たちで考え、自分たちで最高の時間をつくってほしいと思います。

「修学旅行で手に入れたスタートライン」 朝倉 悠翔

きらびやかな音、様々な声。そんなものたちに迎えられて私たちの修学旅行一日目は始まりました。まず一日目の USJ での出来事です。カーニバルゲームのチケットを終了時間ギリギリで買ってしまい、集合時間に間に合わないかもしれないという大ピンチがありました。もう遅れて怒られるのを確実と思っていた時に、前にいた人たちが自分たちの慌てているのに気づき、順番をゆずってくれたのです。そのおかげで景品もゲットできたり、時間にも間に合うことができました。今の自分にはそんなことは絶対にできないので、これからそんなことを気軽にできる人になっていきたいです。次に二日目で取り上げたいことはレクの後です。最初は「こんなダンスで良いのかな」「進行を間違えたらどうしよう」と不安でいっぱいでした。でも、そんな中で学級委員の皆さんなどの人の協力のおかげで何とかレクを成功させることができました。レクが終わり、室長会を終え部屋に戻った後に部屋の皆からこう言われました。「ありがとう」「めっちゃ楽しかった」その言葉だけで気持ちがとても良くなりました。私もこんなふうにもっと素直に周りの人に対して感謝を伝えるべきだと思いました。最後の三日目は帰りのバスでの出来事です。帰り道の最後に皆で歌ったあの歌は本当に楽しくて、今でも頭に残っています。こんなに団結しているクラスは他にないだろうと自信をもって言えるようなそんな気がしました。一組の皆へ。なんかバスの中でもう卒業みたいになっているけどまだまだ続くからね?これからの最後の行事である合唱コンクールに向けて、自分達は、最高のスタートラインに立っていると自分は思っているぞ!

修学旅行 Photo Gallery

写真

「一生忘れない日してくれたのは」 一色 菜子

「この学年にいてよかった。」私は修学旅行中、ずっとそう思っていました。一日目に行ったユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは、ある乗り物に乗った後、あまりの浮遊感と怖さで泣いていました。その他の乗り物でも叫んではいたけど、班のみんなと乗れていることに、ものすごく楽しさを感じました。パークを出たとき、疲れていたけどみんな笑顔で「楽しかったね！」と話していたので私も「来てよかったな。」と思いました。二日目の最初は、清水寺に行って写真撮影やおみくじをしました。特に印象深かったのは、外国の人にソルの折り紙を渡したことです。去年の東京フィールドワークでは渡せずに終わってしまいましたが、今回はみんなで話しかけて無事渡すことができたので、リベンジが果たせて嬉しかったです。二日目は電車やバスを多く利用したので、大変だったけど目的地にたどり着けて、素晴らしいものをたくさん見ることができたので良かったです。修学旅行の三日間、たくさんの観光地に行ったり、美味しいご飯を食べたりと本当に濃い思い出ばかりでした。でも、私の一番の思い出は二日目の学年レクです。私はその日たくさんの所へ行き、一日目以上に疲れ切っていたのであまり楽しめないのではないかと思っていました。でも、その疲れが吹き飛ぶくらいみんなの歓声と盛り上がりがあった上にみんな笑顔で私もいつのまにか笑っていました。その時私は嬉しさと同時に、「もうこのみんなとこんなにも笑い合えて盛り上がっている光景が見られなくなる。」という気持ちがこみ上げて、レクの途中で涙が出てしまいました。なぜなら、一年生の時の自分は二年後の修学旅行でこんなに楽しんでいるとは思ってもいなかったからです。今回の修学旅行でここまで私が楽しめたのは、計画してくれた先生や見送ってくれた親、そして「修学旅行、最高にしたい！」という自分と同じ思いでここまで頑張ってきたみんながいてくれたからです。班長という役割にも正直不安を感じていたけど、班員や先生が全力で支えてくれたおかげでやりきることができました。これからもあごだし学年を大切にしていきたいと思います。そして、この思い出は一生忘れません。



「二つの力」 水谷 武蔵

「やってしまった…」2つの事件を起こしてしまいました。第1の事件は2日目の電車の1DAY パスを班行動中になくしてしまったことです。僕はパニックになりましたが、その時行動班のみんなが僕を落ち着かせてくれました。一生懸命に探しましたが、1DAY パスは見つかりませんでした。みんなの時間と予定を奪ってしまいましたが、班員のみんなは笑顔で快く許してくれました。第2の事件は3日目の朝に寝坊してしまったことです。朝のモーニングコールの担当だったのにすっぴかしてしまいました。どうしようと思いましたが、前日の担当だった女子がやってくれて助かりました。とても感謝しています。みんなに迷惑をかけてしまったり、行動時間がずれてしまったりと、失敗が多かったです。しかし、それによって深まった仲間との絆はやはり修学旅行でしか得られないものだったと思います。一方で、楽しい思い出もたくさんあります。バスレクで「ローソン、ローソン」と、言ってローソンゲームをしていたら、片岡先生が「みんなでやろうよ！」と、言いだして7組も先生たちも一緒にみんなでローソンゲームをしました。失敗してもみんなで笑い合って、7組とも一体になってゲームができたのがとても良かったです。そして、なんといっても、学年レクは1番最高の思い出です。僕は「令和のサザエさん」と、「イケボーイズ」という2つに出演しました。観客が盛り上がってくれているおかげで出演者からするととても安心感がありました。観客席からと出演者側どちらの視点も経験しましたが、どちらでもこの学年の力を感じることができました。修学旅行を通して、僕は班などの小さい集団の力と、学年・クラスのような大きい集団の力を再確認しました。今後は、この経験を生かして生活していきたいです。



「忘れられない修学旅行」 猪狩 美優華

私にとって今回の修学旅行は、友達と楽しい時間を過ごすだけでなく、仲間と協力することの大切さを学ぶことができました。三日間の中でも特に心に残っているのは、班行動の出来事と、宿舎班の仲間とやったモーニングコールです。まず、班の皆でユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行ったことが印象に残っています。たくさんの方がいる中で、班のみんなとはぐれないように声をかけ合いながら行動しました。乗りたいアトラクションや行きたい場所がそれぞれ違ったので、自分の意見だけを通すのではなく、友達の意見も聞きながら決めることで、みんなが楽しめるようにすることができました。時間を確認しながら行動するのは少し大変でしたが、みんなで相談して予定通りに行動できたときには達成感がありました。友達とアトラクションに乗ったり、たくさん写真を撮ったりして、一緒に笑い合えたことがとても良かったです。そして、宿舎で印象に残っているのが、モーニングコールです。私たちの班は二日目の朝の担当だったのですが、なんと班のみんなが寝坊してしまい、二日目にモーニングコールをすることができませんでした。朝早く起きる予定だったのに、なんとAMとPMを間違えて目覚まし時計をセットしてしまいました。起きたときはみんなで「やってしまった！」と、焦りました。でも、その出来事があったからこそ、三日目にもう一度みんなで早起きをしてモーニングコールをすることになりました。二日目にできなかった分、三日目にみんなでできたことが嬉しくて、とても印象に残っています。今思い返すと、寝坊してしまったことも含めて、班のみんなで笑える楽しい思い出になりました。この二つの経験を通して、私は仲間と協力することの大切さを学びました。班行動では、みんなの意見を聞きながら行動することが大切でした。また、モーニングコールでは、予定通りにできないことがあっても、みんなで協力することで、楽しい思い出に変えることができるのだと感じました。今回の修学旅行では、普段の学校生活ではできない経験をたくさんすることができました。友達と過ごした楽しい時間だけでなく、協力することや、周りの人のことを考えて行動することの大切さも学ぶことができました。今回の修学旅行でできた思い出を大切に、これからの学校生活でも仲間と助け合うことを忘れずに過ごしていきたいです。三日間で起きた出来事を思い返すと、楽しかったことも、寝坊して焦ったことも、すべてが大切な思い出です。今回の修学旅行は、私にとってこれからも忘れられない大切な三日間になりました。



「最高の思い出」 佐藤 歩乃

最後の修学旅行がこんなにも最高の思い出になるとは思っていませんでした。先生方がサプライズしてくれたUSJ。私は今までUSJに行ったことがありませんでした。それも、前日の夜は眠れなかったことを覚えています。USJでは、一つしか乗れないと思っていた乗り物に三つも乗ることができました。最初に乗ったハリウッド・ドリーム・ザ・ライドのある心臓がとびでるような感覚は今でも覚えています。そして何より、班のみんなと写真を撮ったり、時間を気にしたりしながらも全力で楽しんだことが一番の思い出です。クルーさんとてもいい人ばかりで自然と笑顔になりました。奈良では、とても優しい方に教えてもらいながらおそろいのプレスレットを作りました。そのプレスレットを見るたびにあの時の光景が頭に浮かぶほどとてもいい時間でした。京都では、タクシーの運転手さんに案内をもらった建物が印象的で、今でも目の前に建物が出てきそうです。そして宿舎では、みんなで協力して片付けをしたり、いつもはできないことで爆笑したりしたことが良かったです。時には、時間がギリギリになってしまったこともあったけど、最終日にはそれを生かし、五分前行動ができたのも思い出です。この修学旅行を第三学年のみんなとこの班で行けて幸せでした。いつになってもこの三日間を忘れることはないと思います。

